

近畿部会 2年度目に向けて

1994年5月20日、近畿部会にとって2年度目にあたります平成6年度総会が、和歌山県立文書館において開催されました（出席者数は49名）。去年の同じ日に部会が発足し、この一年の間に会員数は機関会員26・個人会員44へと増加し、部会としても大所帯となつてまいりました。昨年度は部会活動として発足記念講演会をはじめ例会8回、テーマ研究会である「近世古文書研究会」7回、また会報『NETWORK』1・2号と『発足記念講演集』を発行し、初年度としてはまずまず順調な滑り出しができました。

今回の総会では、かねてから役員会で検討していました運営委員会の設置について、会則の一部改正案を提示し、承諾をいただきました。改正の内容は①（役員会の補助組織として）部会に運営委員を若干名おくこと ②運営委員は会員の中から選び、その任期は1年とすること ③運営委員会は随時開催すること などの項目が追加されました。運営委員の方々には、部会活動案の策定と例会およびテーマ研究会の企画運営をしていただきます。なお平成6年度の運営委員は以下の方々をお願いしています。

亀岡哲也氏（近江八幡市教委文化財課）

近藤孝敏氏（貝塚市郷土資料室）

辻川 敦氏（尼崎市立地域研究史料館）

吉井敏幸氏（元興寺文化財研究所）

金山正子氏（大阪府公文書館）

平成6年度の部会運営の基本方針は、

- (1) 例会・テーマ研究会を中心に、会員の意見・ニーズに沿って部会の取り組みの方向性を明確にし、情報交換を軸として会員相互の連絡と連携を図り、また研究協議を進めていく。
- (2) 史料保存利用・文書館への認識の喚起に向けて、対外的な働きかけや連携を行い、同時に全史料協（および近畿部会）の存在をも広く知らせていく。これらの取り組みを通じて、広く歴史資料の保存利用活動の振興を図り、新たな会員をも確保していく。



(3) 役員会・事務局と会員との意志疎通、会員の要望に沿った運営のための体制をつくる。の3点を基本に進めていきたいと思ひます。

また、2月に会員の方々にアンケートを送付して活動に関するご意見を伺いましたが、その際希望の多かったテーマはなるべく盛り込んだ内容で、平成6年度の事業計画をたてています。

【平成6年度例会開催予定】

4月	尼崎市立地域研究史料館	（兵庫県）
5月	総会・和歌山県立文書館	（和歌山県）
6月	天理大学天理図書館	（奈良県）
8月	箕面市市史担当	（大阪府）
9月	長浜市立長浜城歴史博物館	（滋賀県）
11月	滋賀県県民情報室	（滋賀県）
12月	梅花学園	（大阪府）
1月	日向市文化資料館	（京都府）
2月	博物館との連携について	（未定）
3月	歴史研究者との意見交換	（未定）

【テーマ研究会】

近世古文書研究会 月1回（通常は最終土曜日）
その他、会員の要望に応じて設定。

【講演会】7月18日開催。テーマ「歴史資料・公文書保存利用と文書館」

【会報】年3回発行予定。

今年度も皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。〔なお、他地域の方で近畿部会の案内をご希望の方は事務局までご連絡ください。〕

（近畿部会事務局 大阪府公文書館内 金山）